

じゅしゅう

二月二十五日(日)落語家の桂吉坊さんをお迎えして、「仏教文化講演会」を開催させていただきました。

というタイトルのものをお願いしました。お文とは御文章のことで、蓮如上人が書かれたお手紙のことです。

落語の設定の中にも(今回は船場の酒屋でしたが)浄土真宗が根付いていることに感動を覚えました。

それぞれの話を聞いていた後には、二人で対談を行いました。普段は表舞台です。

ポットライトを浴びておられる落語家さん。いつもは見せることのない楽屋での姿や、ネタを覚えていくときのご苦労など、皆さまの質問とともに楽しく聞かせていただきました。

それにしても落語家さんの話芸というものは本当に素晴らしいです。声色の

第4回 浄覚寺仏教文化講演会 開催

また落語では「お文さん」とをお伝えしました。

また落語では「お文さん」とをお伝えしました。

第59号
(通算399号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

・3月のヨガ教室は、お寺で彼岸会の法要が勤まりますので、お休みさせていただきます。
・次回は4月17日(水)です。ご予約ください。



化をつけながら、何人もの登場人物を演じ分け、なおかつ、その情景が私たちの頭の中に映像として思い浮かびます。後から聞いた話ですが、お客さんにイメージを作ってもらうためには違和感を持たれるとダメなのだそう。例えば今回は、丁稚(ちやぢ)が赤ん坊を片手で抱いて、もう片方の手には一升のお酒が入った角樽(つがね)を持ち、泣きながら帰って来るといいう場面がありました。大人ならいざ

知らず、十歳前後の子どもが本当に両手でこれを持ってのだろうか。そんなことを考えていくのだそうです。本当に些細なところまでこだわって話を演じられるところに、聞いている私たちが安心して笑え、明日への活力をもらえるような暖かさを感じました。

聖人一流の

御勸化のをもむきは、

信心をもて

本とせられ候。

蓮如上人『聖人一流章』



御文章に聞く(第52回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。前回までで八万の法蔵章の前半部分が終わりました。後半の大意をお伝えしようと思います。

八万の法蔵章(五帖第二通)
されば、聖人の御ことばにも一切の男女たらん身は・弥陀の本願を信ぜずしては・ふつとたすかるということあるべからずと仰せられたり、このゆえにいかなる女人なりということも・もろもろの雑行をすてて、一念に弥陀如来今度の後生たすけたまえと・ふかくたのみもうさん人は、十人も百人も・みなともに弥陀の報土に往生すべきこと・さらさら、疑いあるべからざるものなり、あなかしこ あなかしこ

も、阿弥陀仏の本願を信じていることなくしては、たすかるということはありません」と、きっぱりと仰せになられています。ですから、女性であろうとも、男性であろうとも、自力の心やさまざまな修行を捨てて、一筋に「阿弥陀仏このたびの後生おたすけください」と仰せにおまかせする人は、十人であっても、百人であっても、もれなく阿弥陀仏の報土に往生をすることは疑いのないことであります。

「報土」とは、阿弥陀仏が法蔵菩薩であられたとき、万人を救わんとして建てられた本願が、そのまま完成したことをあらわすために、本願と修行に報いて完成した仏国土であることを省略した言葉です。その「報土」に生まれるとは、阿弥陀仏が私のために願ってくださった事柄が、そのまま私の上に実現した世界なのです。

仏教語辞典



命が終わって仏の世界に生まれ、阿弥陀如来の浄土に生まれる極楽往生、他の仏の世界に生まれることを十方往生、弥勒菩薩が修行する兜率天に往生することを、兜率往生という。

往生 おうじょう

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。もう少し桂吉坊さんの落語の素晴らしさを付け加えようと思います。声色、表情、仕草にいたるまでまるで無駄がなく、皆一様にその世界に引き込まれるようだったと感想を聞かせていただきました。「お文さん」というネタは私がリクエストしたもので、今回が吉坊さんにとって初演となりました。にもかかわらず、最高のクオリティで来てくださったこと、頭が下ががる思いでありました。表面本文にも書きましたが、緻密な描写で私たちの脳裏にその情景が浮かび上がります。頭に思い浮かべているのは私なのでしようが、それを思い浮かべさせているのは、間違いなく吉坊さんのはたらかみです。私を信じさせ、必ず浄土に迎え取るといふ阿弥陀さまの他力のはたらかみも、このように味わえるのではないのでしょうか。(釋法道)

行事案内

4月
日時・三月二十日(祝) 十四時より
行事・春季彼岸会
場所・長原浄覚寺
法話・加藤真悟先生(大阪)
私たちのいのちの行き先、また還る場所とも味わうお彼岸(お浄土)のことを聞かせていただきますよう。
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)
・四月二十日(土) 十四時・十九時
二十一日(日) 十四時のみ
報恩講法要 法話中西昌弘先生